

観光圏 能登認定に前向き

観光庁長官 白山周辺も候補

観光庁の本保芳明長官は十三日、石川県宝達志水町から珠洲市までの四市五町でつくる「能登地域における観光協議会」が同庁の進める「観光圏」の認定を目指していることについて、申請があった場合は認定に前向きな姿勢を示した。県庁で谷本正憲知事と懇談し明らかにした。

谷本知事が能登半島の地震の風評被害を払拭しようと二〇〇八年七月十九日から百日間、能登地域全体を会場に「能登ふるさと博」を開催したことや協議会の動きを紹介。これを受け本保長官は「ふるさと博を観光圏の中核事業のような形にする」とまとまりやすい。県も後押しを」と応じた。

「白山」を中心とした観光圏整備の可能性についても言及した。懇談には後藤靖子・国土交通省北陸信越運輸局長が同席。引き続き県庁では本保長官と県内の観光関係者との懇談会も開かれた。本保長官らは、世界の富裕層に県の魅力アピールするため十四日に金沢市内で開かれるラグジュアリー・フスタイル国際会議に出席するため来県した。(基村祐一)



谷本知事と懇談する本保
観光庁長官(中)と後藤北陸
信越運輸局長(左)―県庁で

観光圏の認定は〇八年七月に施行された観光圏整備法に基づき、地域経済を活性化させるため二泊以上の滞在客やリピーターを増やす地域の取り組みを支援するのが目的。本保長官は石川、福井、岐阜が県境を接す